

海外講演報告

1.	日程	2014年 8月 23日～ 8月 24日
2.	地域(概要含む)	キルギス共和国 (ビシュケク) 会場: Japan Center KRJC
3.	担当者(人数・役割)	池田玲子(鳥取大学) 岩田夏穂(政策研究大学院大学)
4.	海外講演の形態	第2回キルギス共和国日本語教育セミナーにて 講演とワークショップ
5.	主催(招聘・科研・個人・その他)	主催: キルギス共和国日本語教師会 共催: キルギス共和国日本人材開発センター 後援: 在キルギス共和国日本国大使館、キルギス教育省 協賛: 国際交流基金
6.	テーマ(タイトル)	講演「日本語教育のピア・ラーニングー学び合うための授業デザインとはー」 ワークショップ「ピア・ラーニング授業のための創造的な課題と学習の支援」
7.	内容の概要	講演: 日本語教育におけるピア・ラーニングの理論的背景、実践および研究の現状、教室活動のデザインにおける留意点について紹介した。 ワークショップ: ピア・ラーニングの考え方に基づく活動として、4コママンガを使った課題、昔話を使った課題に実際に取り組み、身近な素材をどのように教材として用いるかを確認した。その後で参加者は、グループに分かれ、自分たちで新聞や雑誌の写真を使ってウォーミングアップ、本活動、振り返りの授業デザインをつくり、ポスターにして共有した。
8.	参加者(人数・背景・声など)	キルギス語母語話者日本語教師 31名 日本語母語話者教師 6名
9.	担当者の内省	セミナーでは、現場でのピア・ラーニングのさまざまな実践に関する報告や研究成果が聞けて有意義だった。また、ワークショップでは、今回、実際に自分たちでゼロから活動の流れを作る活動に参加して、ごく身近な素材も教材となりうることを実感してもらえたようだ。自分自身もそうだが、個人で本や論文で勉強するだけでは、なかなか発想の転換が難しい。仲間で議論しながら試行錯誤することの意義を実感した。その後のアンケート等から、すぐにピア・ラーニングの考え方を授業に取り入れたいという反応があり、有意義であった。
10.	次回への課題	今回の開催地のビシュケクのように必要なものがそろっているわけではない地方の教育環境では、たとえば素材に使いたい写真等も、簡単に入

		<p>手できないといった事情がある。より発想を柔軟にし、そういった環境でも可能なピア・ラーニングの実践を提案していく必要があると感じた。</p>
<p>参加者のみなさんと</p>		
		<p>キルギス日本語教師会 Facebook</p>